

学会・研究会抄録

第81回東京女子医科大学学会総会

日 時：平成27年10月10日（土）13：00～15：15
会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

総合司会（幹事）佐藤麻子

総 会 13：00～13：15

挨拶

（会長）吉岡俊正

庶務報告

（庶務担当幹事）内田啓子

会計報告

（会計担当幹事）遠藤弘良

シンポジウム「グローバル社会における感染症」 13：50～15：15

座長（東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学教授・講座主任）遠藤弘良

1. グローバルな新興感染症の脅威

（東北大学大学院医学系研究科・微生物学分野教授）押谷 仁

2. グローバルに広がる熱帯病

（国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部部長）狩野繁之

3. グローバルなトラベルにおける感染症予防

（東京医科大学病院渡航者医療センター教授）濱田篤郎

ディスカッション

〔シンポジウム〕

グローバル社会における感染症

1. グローバルな新興感染症の脅威

（東北大学大学院医学系研究科・微生物学分野）

押谷 仁

グローバリゼーションとともに新たな感染症が出現し、さらに出現した感染症が国境を越えて拡散するリスクが増大している。実際に21世紀に入り、相次いでそのような新興感染症の脅威に人類はさらされてきている。その代表的なものとして、SARS（2003年）・高病原性鳥インフルエンザA（H5N1）（2003年）・パンデミックインフルエンザA（H1N1）（2009年）・MERS（2012年～）・鳥インフルエンザA（H7N9）（2013年～）などがある。

グローバリゼーションとともに航空網は急速に発展しており世界中のあらゆる場所に72時間以内には到達できるようになっている。これはほとんどの感染症において、潜伏期間内に感染者がその感染症を世界のさまざまな場所に拡散させるリスクがあるということを意味している。日本でもこのような感染症のリスクは確実に存在するという前提で感染症危機管理体制を整備する必要がある。

ある。

このような感染症を含む健康危機管理にあたっては、それぞれのリスクをきちんと評価して対策を考えていくというリスクマネジメントを基本とするというのが国際的な流れになっている。日本においてはこのような考え方が十分に浸透しておらず、リスク評価に基づく対策が実施されていたとは言い難いような側面も多く見られてきている。日本は島国だから大丈夫だというような、根拠のない「安全神話」に頼らず、さまざまなリスクに対応できる体制をそれぞれの地域や政府のレベルで整備していくことが求められている。

2. グローバルに広がる熱帯病

（国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部）

狩野繁之

熱帯病には、比較的ヒトに適応して慢性的な経過を示す寄生虫疾患から、きわめて有害な病態を与える急性ウイルス性感染症まで、その多様性はきわめて高い。現在、顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases：NTDs）と呼ばれて纏められる17の感染症群と、新興・再興感染症（Emerging and Re-emerging Infectious

Diseases) と称される疾患群で整理してそれぞれの特徴を紐解くと、熱帯病の深い理解に繋がる。すなわち、世界の熱帯・亜熱帯地域には、それぞれの気候・風土・文化・社会環境に支えられた特有なエコシステムが存在し、さまざまな地域に特異的な熱帯病がそこに居住する人びとの間を（さらには人と動物との間を）行ったり来たりして、同地域に大きな疾病負荷を与えている。さらには、人による地域の開発・無計画な都市化、それに伴う気候変動や環境の変化、食材や人の移動による疾病の拡散など、熱帯病の疫学は多元的な視野で捉えなければならない。また貧困に起因する社会・経済格差も、地球規模での熱帯病対策を進めてゆくには、解決しなくてはならない Global issue である。もはや熱帯病は熱帯地域に居住/旅行をする人だけの問題ではなく、地球上すべての人びとに等しく重要な問題であることを理解し、いまこそそのグローバルな拡散を元から絶たねばならない。

3. グローバルなトラベルにおける感染症予防

(東京医科大学病院渡航者医療センター)

濱田篤郎

日本からの海外出国者数は年々増加を続けており、最近では年間 1700 万人以上にのぼっている。これは国民の 7

人に 1 人が毎年海外渡航をしている計算になる。さらに滞在先も、欧米諸国からアジア、アフリカ、中南米などの途上国にシフトしている状況にある。こうした海外渡航者が滞在先で健康問題に遭遇する頻度は高く、とりわけ途上国に滞在中は感染症が大きな健康問題になる。

海外渡航者にリスクのある感染症の中では、飲食物から経口感染する旅行者下痢症や A 型肝炎が最も頻度が高い。また、蚊が媒介する感染症も、滞在する地域によりリスクが高くなる。たとえば、デング熱は東南アジアや中南米で雨期に流行が発生しており、日本人渡航者の感染例も数多く報告されている。マラリアの流行は、アジアや中南米では特定の地域に限定されているが、サハラ以南のアフリカでは都市や観光地でも感染リスクがある。さらに、性行為感染症や動物由来の感染症（狂犬病など）も途上国では注意が必要である。こうした感染症を予防するためには、出国前に滞在先での生活指導を十分に行うとともに、ワクチン接種や薬剤の予防内服が有効である。

本講演では海外渡航者の感染症予防について解説するとともに、最近、国内で注目されているトラベルメディスン（渡航医学）についても紹介する。